

# 公務研修生研修レポート

大連市公務研修生 何慶海

私は大連市公務研修生として伊万里市に来てから、もうすぐ一年間になります。伊万里の皆様のお蔭で、市役所で一般行政研修を行うとともに、県内外の各地を見学したり、多様なイベントと各種交流活動に参加したりして、多彩な充実した一年を過ごしました。それでは、この一年の研修体験を次の通りご報告します。

## ①一般行政研修

一般行政研修は7月から8月までと10月から11月まででした。最初の教育委員会生涯学習課から最後の産業部伊万里牛課まで、各部門での業務説明と現地視察によって、市役所の仕事の内容を理解できました。たとえば、下水道課の研修と浄化センターの見学では、伊万里の川がどうしてこんなにきれいなのかよく分かりました。都市開発課の研修では、伊万里市における都市環境の形成についてよく分かりました。私は大連での仕事は社会保険に関する仕事なので、この方面に興味を持っていますが、日本の年金制度と国民健康保険制度についても研修できて、大変いい勉強になりました。伊万里市役所の組織を見ると、日本は地方の発展を促すため、地元の状況に応じた仕事のやり方や部門の設置を行っています。中国は日本と体制が違いますから、役所の仕事のやり方や部門設置などが大分違いますが、日本に学ぶべきところが多いと思います。実は私が一番感心したのは職員の皆さんの来庁者への優しい対応と仕事のやり方や問題の考え方などの緻密さです。

## ②見学

中国語では、日本語の「見学」のように一つの単語で「見る」と「学ぶ」二重の意味を表現できる言葉はないです。すごい言葉だと思います。楽しくて勉

強になる見学は私の一年の研修生活の中で大きな役割を持っていました。市内、県内、県外の見学によって、伊万里だけではなく、佐賀県及び九州の歴史や文化、風物などの素晴らしさを満喫しました。

最初は市内見学を通して、伊万里の 2000 年余りの歴史と特有な陶磁文化を勉強しました。歴史民俗資料館や青幡神社、神ノ原八幡宮などの見学によって、伊万里の歴史に魅力を感じました。そして、伊万里津の陶器商家資料館とからくり時計、秘窯の里大川内山の見学を通して、昔の伊万里が焼物の積出港として繁栄したと現代において練磨され、磁器作りの技法が更に発展したことが分かりました。元々私は焼物にあまり興味がなかったですが、焼物文化の影響を受けて、今では磁器が大好きになっていて、時間があれば、いつでも大川内山へ磁器を見に行きたいと思っています。それから、伊万里湾大橋、コンテナターミナルや七ツ島工業団地の見学を通して、現代伊万里の魅力も知ることが出来ました。

県内見学としては、佐賀市の県立美術館で「風の画家－中島潔の作品展」や日本で一番大きな木造復元建築である佐賀城本丸歴史館、唐津の「鯨組主中尾家屋敷」や国指定重要文化財「旧高取邸」、鹿島の祐徳稲荷神社などを見学しました。これらの見学を通して、佐賀県の歴史とその歴史を推進した賢人たちの業績及び各時代それぞれの生活の特徴や文化形式などを理解するようになりました。

県外見学では、熊本県の熊本城と阿蘇、福岡県の太宰府天満宮と九州国立博物館、長崎県の平戸と生月及び中国の旧正月に長崎で開かれたランタンフェスティバルなどを見学しました、そのどれもがとても素晴らしくて深い印象が残っています。

### ③中国語教室と各種イベント及び交流活動への参加

5月から11月まで約半年の間、私は中国語教室の講師として市民の皆さんに中国語を教えました。この半年間、受講生の皆さんの中国語に対する興味の深さと勉強の真面目さに感動させられました。授業の時は、言語だけでなく多くの方面での交流もできて、私もいろいろと勉強になりました。そして、生徒さんと一緒に中国語スピーチコンテストに参加したり、生徒さんの家に誘われてご馳走になったり、一緒にマジックショーを見に行ったりして、皆さんのおかげで、楽しくて有意義な半年間を過ごしました。

また、この一年の中で、さまざまなイベントや祭りに参加して、日本の民俗と伝統文化を体験すると同時に、多くの伊万里市民の皆さんと触れ合いました。来日直後の梅まつりやアグリ山の植樹、図書館めばえの日から始まり、東山代町脇野の餅つき、伊万里ウォーク大会、大川町の子供キャンプ、どっちゃん祭り、波多津町の港祭り、トンテントン祭り、東山代町の山之寺祭り、年末年始の餅つきや餃子会など、貴重な思い出ばかりです。

### ④マラソン大会の参加

私は5月の下旬に課の皆さんに誘われ、11月の下関海響マラソンに申し込みました。そして半年ぐらい皆さんと一緒に練習し続けたおかげで、完走することが出来ました。

伊万里での一年間の収穫は数えられないほど多いです。研修と見学によって、知識と見聞が広がっただけでなく、日本でマラソンに出て、体力と精神力の限界に挑戦して勝てたことも、きっと私の人生の中で一番貴重な思い出になると思います。

2012年1月30日